



詩篇第一巻
詩篇12-31篇

詩1巻. 2集. 3集.

2012.6.1

1-11: 幸. 善恵をば比. (主)
 12-18: 主は岩. 主は受け子分. (主) 主は信頼かき岩.
 19-31: 王は岩の子. 主の家に住む. (民) 岩なる神様に信頼せよ.
 32-41: 幸. 祝福をば与ふる. (民) (創49:24)
 12-18: II Pt 1:12:22: (Ps 18) 主は岩. / 申32: 主は岩
 II Pt 1:12:23: 2:17の最後のことば / 申33: モセの最後のことば
 19-31: I 歴. 16: 契約の箱. みことばを賛美. / ヨハ27.
 I 歴. 17: 主の家を与ふる. (契約の相続分) 5:18:24. 雄々しC.
 (Ps 27. Ps 31)

	・地の王が王と争う.	・地の悪者が天の主に逆らう
地)	19-25. 王は岩の子 王の力. 罪赦(義)	12-17. 主は受け子分 ×偽話. 主を喜び楽しむ.
天)	26-31. 主の家に住む. 願いの声. 感謝の声 ・天の民が賛美する 王民)	18. 主は岩. 主は力. 敵に復讐(義) ・主は天から復讐する 主)

詩篇第1巻、第2集と第3集、12篇から18篇と19篇から31篇を見ていて、大きな流れはこの紙を見てください。主は岩であることと、主が受ける分であること。王は岩の子、岩なる神様の子であるということと、主の家に住むこと。この王と相続分、主と受ける分ということが並行しているところなのですけれど、これを確かめようとする、並べて比べなければならぬのですけれど、ちょっと複雑です。

こういうような分析と、こんなような分析があるのですけれど、12から15の4つと18の真ん中の4つ、これが並行しているのですけれど、裏返して並行しているのですよね。これが「みことばは純粹」「天から答えてくださる」「敵を滅ぼす」「義しきよさに従って」というようなことで、裏返しになって並行しています。

19からのところは、この4段落と(20と21もひとつとみて)この後半の4つも裏返しになって、これは上下じゃなくて右左で並行している。「主の声」と「主に身を避けて恥を見ない」という19,22と、29,31。「呼ぶと答えて」「敵から救われる」という話が20,21と28。23と30が「死から救われる」「災いから救われる」ということで並行しています。

その並行をどういう内容なのかをもうちょっと確認してみると、この第2集の外側が第3集の真ん中、第3集の外側が第2集の真ん中と関係しているだろうというように昔見ました。それはどこが出だしかというと、15と24が似すぎているからというところからスタートして、それぞれ並行を見てみると、例えば、ここの4つで言われている内容をこの4つのところに並行させてみるができるということは、おのずとこのことこちらが並行しているから、その並行ともちゃんと並行しているかなと見てみると、並行しているということがわかる。

第3集の外側と第2集の真ん中も同じように並行していることが確かめられました。確かめた内容は、またまとめないといけませんけれど、今はまだ途中です。このあんこ部分、両方の真ん中のところは、16と17、18の1と18の6、24と26、25と27。こちらは横、こちらは縦に大きく…組として見るができるかな。

16と17は、さきほどの最初の第2集、第3集を分析したときのこちらの絵でいうところの「主は岩」「主は受ける分」という題がついていますよね。それが主は岩、主は受ける分ということですね。こちらには、「王は揺るがない岩である」ということと「主の家に住む」ことというふうに分けていますが、それは今度こちら側、主に信頼する、主に身を避ける、その道を歩む、その道からそれないということが、王様が岩であるという岩の歩みをしているということが言えるかな。

それで24と26。これは、義しい、きよい歩みをしている（歩むほう）人たちは主の家に住むことができますということが縦の二つということで、全体の第2集、第3集の概略と、この中のもっと細かいものは一致しているということを説明したいのですが、いっぱいあって難しいです。